

台風 18 号による京都府亀岡市における災害ボランティア派遣報告書 第 19 回派遣

四日市東日本大震災支援の会亀岡派遣隊

森 正成

<日程>2013 年 9 月 22 日（日曜日）日帰り

06：00 四日市大学出発（災害等派遣車両指定で高速道路は無料走行）

08：00 亀岡市災害ボランティアセンター到着

09：00 マッチング

10：00 作業開始

15：30 作業終了

16：00 災害ボランティアセンターで活動報告して帰路に

17：00 京都市のスーパー銭湯で入浴

20：00 四日市大学帰着

<派遣人員>計 13 名

四日市大学；学生 6 名、教員 1 名

四日市看護医療大学；学生 3 名

桑名北高等学校；生徒 2 名、教員 1 名

<装備>

支援の会装備：安全長靴、ゴーグル、防塵マスク、軍手、

個人装備：ヤッケ、作業着

災害ボランティアセンター貸出道具：角・剣スコ、土嚢袋

<食料・飲料>

昼食は支援の会でおにぎり(途中のコンビニで調達)2 個ずつを支給

飲料；2 リットルのペットボトル+紙コップ（クーラーボックスで氷を持参）

現地で飲料・アイスなどの差し入れをいただきました。

<参加者感想>

私自身は今回の派遣で泥かきを行うのは東日本大震災以降のことでもあり、初めてリーダーをさせていただきました。亀岡についての派遣隊は、社会福祉協議会が立ち上げた災害ボランティアセンターで活動先のマッチングを経て、京都府亀岡市本梅町で作業にあたりました。まずは、農地の水路に溜まった砂をシャベルやスコップで取り除き土のう袋に入れて行きました。また、水路トンネルの中にも砂が溜まっており、あまりにも奥まで行っ

ているので、地元の方と打ち合わせし、手前の砂だけを取り除きました。他のボランティアの方とも共同で作業に当たり、少しずつ元の姿に戻ってきましたが、奥の方に砂が入っていたが取れなくて悔しかったです。

全体をまとめることは出来ましたが、リーダーの職の難しさを学びました。活動の間の休憩時間に地元の方にお話を聞くことができ、我々が掃除した側溝は台風時に水は自分の膝まであったと聞きました。またボランティアにおいて宮城県石巻市から来ている方もみえました。災害が発生した時に自分たちがいかに早く駆け付けて作業出来るかの課題が自分の中に見つかりました。この先三重県にも災害が起きた場合、自分たちにできることをして行きたいと思います。（四日市大学総合政策学部総合政策学科 3年 森 正成）

今回、台風の被害を受けた京都府亀岡市で活動を行いました。活動の内容は、側溝にたまった砂の除去で、皆暑い中作業をしていました。作業の途中、台風の被害にあった方から「どこから来てくれているの?」「わざわざ遠くから」と声をかけてもらいました。

自分のやっていることが、誰かに喜んでもらえる、誰かの役にたっていると感じました。ボランティアセンターで、災害ボランティアがあることを知らずに、業者に頼む方がいると聞きました。こういった活動がもっと多くの方に知ってもらえたらいいと思います。

（四日市大学経済学部経済学科 3年 三羽雄万）

私は亀岡市でのボランティアに参加し、台風による被害の大きさと水害に負けない周辺住民の皆様の思いを知ることができました。これまで東北での活動では仮設住宅で住民の方との交流などが多く、泥掻きやゴミの撤去といった作業は初めてでした。正直言って暑く大変だったので、もう少し休憩が欲しいと思ったりもしましたが、作業を終えて喜んで下さる地域の皆様の笑顔を思い浮かべると、まだ頑張らなければいけない!と終了まで作業を続けました。支援の会と別で参加されていたボランティアの方とも話したりして、最後まで充実した活動でした。今後も亀岡市および被害を受けた地域の復興を願い、機会があればまた訪れたいと思います。（環境情報学部環境情報学科 3年 岡山祐貴）

今回、台風の影響で多大な被害を受けた京都のボランティアに参加して、地元の住民や、周りに住む人々の協力する姿に、とても感動しました。作業中に、たまたま通りかかった地元の人が、重機を使って泥かきを手伝ったり、差し入れを持ってきてくれたりと、初めて参加した僕にとって、とてもびっくりで、人のやさしさを肌で感じられるとても大切なボランティア活動になりました。（四日市大学総合政策学部総合政策学科 3年 福里勇太）

泥の中からザリガニやゴルフボールなど様々な物が出てきたからこの災害で色々なストーリーがあったのだらうと思いました。それを思うと悲しくなってきました。現地で活動していて、通りすがりのお年寄りの人と話す機会がありました。自分が辛い目にあった大

変な目にあった、ということをお話すのではなく、「あんた達暑い中大変やろ」など、何もなかった僕達ばかりを気にかけてくれました。災害にあった方の心は前向きで優し、そう改めて思いました。

(四日市大学総合政策学部総合政策学科 2年 二井秋光)

京都府亀岡市へボランティア派遣に行き、亀岡市は自然が多くあり景色もきれいなとても落ち着いたところでした。今回は川の氾濫で側溝に流れた土砂を土嚢袋に詰める作業で、スコップで土砂をすくうとゴルフボールや生き物の死骸、粗大ごみなどが出てきて大変でした。ショベルカーを使って作業しているところもあり、この時機械のありがたみを感じました。作業していると地元の方からたくさん感謝され、やりがいを感じたと同時に、また機会があればボランティアに参加したいと思いました。

(四日市大学総合政策学部総合政策学科 2年 東佑紀)



亀岡市災害ボランティアセンターの様子



農地の共用水路での土砂撤去作業



分別して大量の土嚢袋を山積み



他のボランティア団体との協働作業